

Welfare [ウェルフェア]

2023

70

2024年度 社会福祉助成事業実施要綱

CONTENTS

P2 2023年度社会福祉助成事業助成一覧

P4 2024年度社会福祉助成事業実施要綱

P6 くっきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業成果報告~

あじの里異世代交流と介護予防事業
社会福祉法人 洋々会(香川県)

重症心身障害児者施設における口腔ケアチーム立ち上げに係る
「口腔ケアコンサルテーションプログラム」の活用
びわこ学園医療福祉センター野洲(滋賀県)

真のごちゃまぜプロジェクト・知ることからはじめよう
認定NPO法人 アークシップ(神奈川県)

妊娠・出産・子育ての無料LINE相談窓口
「コアLINE」の相談員研修事業
特定非営利活動法人 そらいろコアラ(栃木県)

P14 書き損じはがき収集ご協力をお願い

P15 福祉の共済コーナー

2023年度 助成金交付団体決定

2023年度の助成金交付先は、社会福祉向上を目指した研修事業と研究事業を対象として、54団体に1,953万円の助成を決定しました。今年度の公募においては、新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきたことから、北海道から沖縄まで数多くの社会福祉法人や一般社団法人、NPO法人、その他任意団体等から多方面にわたる事業内容の案件をいただきました。また、アジア福祉助成については5団体に150万円の助成を決定しました。

2023年度 助成先一覧

1. 社会福祉助成事業

A. 研修事業 46団体 助成額:1,589万円

都道府県	団体名	事業名
北海道	社会福祉法人 鹿追恵愛会	地域・自宅での看取りを推進・普及するための住民啓蒙連続型研修会
北海道	特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず	第10回ソーシャルファームジャパンサミット in 東京
北海道	特定非営利活動法人 Rumah kita	支援機器活用セミナー in 札幌 ～できてる? 「アセスメント」 & できる! 「視覚支援」でコミュニケーション～
北海道	音訳グループ旭川本の会	音訳技術研修会
青森県	全国ギャンブル依存症家族の会 青森	ギャンブル依存症は回復できる病気です。正しい対応を学ぶためのギャンブル依存症セミナー&家族相談会事業
宮城県	特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘	子どもと関わる大人の現場ですぐ役立つ研修会
栃木県	特定非営利活動法人 CCV	心と人に寄り添うセルフコンパッションの地域づくり研修事業
千葉県	社会福祉法人 九十九会	仕事と職場に誇りをもつための職員研修
東京都	社会福祉法人 いのちの電話	ボランティア相談員の研修
東京都	社会福祉法人 東京コロニー 東京都葛飾福祉工場	「在宅就労セミナー2023」開催
東京都	社会福祉法人 母子生活支援施設ベタニヤホーム	多様化する親子支援のための専門性定着研修
東京都	社会福祉法人 品川総合福祉センター	社会福祉啓発講座「ヤングケアラーのためにできること」
東京都	社会福祉法人 東京栄和会なぎさ楽苑	家族介護者支援ネットワーク構築に向けた研修事業
東京都	一般社団法人 CIS	space kid's Carnival (スペースキッズカーニバル)
東京都	一般社団法人 リエンゲージメント	教えて先輩!～企業で就労継続していくということ～
東京都	特定非営利活動法人 モナミセブン	当事者サークル
東京都	ゆめ旅KAIGO!! フォーラム実行委員会	ゆめ旅KAIGO! フォーラムVol.8開催
神奈川県	社会福祉法人 訪問の家 地域活動ホーム連	日中活動支援事業(生活介護)
神奈川県	特定非営利活動法人 神奈川フォスターケアサポートプロジェクト	里子の自立のための研修会 ～自立した里子の経験談から学ぶ
神奈川県	特定非営利活動法人 つながる会	つながるcaféにおける対話実践のための研修
神奈川県	特定非営利活動法人 宮ノマエストロ	回想法を使った認知症カフェ運営者の育成事業
福井県	特定非営利活動法人 親子関係支援センター やまりす	CRC親子プログラムふぁりファシリテーター養成事業
長野県	特定非営利活動法人 共働学舎	地域で必要とされる福祉コミュニティづくりに向けた発信事業
長野県	社会福祉法人 大町市社会福祉協議会	地域でつながる農福ケアファーム推進事業
岐阜県	社会福祉法人 岐阜羽鳥ボランティア協会	(仮題) 多様な学びと居場所づくり ～自分らしさを求めて～
岐阜県	一般社団法人 サスティナブル・サポート	就労支援サービスの支援力向上のための研修
静岡県	社会福祉法人 天竜厚生会	社会福祉法人天竜厚生会 実践発表会
静岡県	社会福祉法人 明光会	障害者支援シンポジウム ～高齢障害者のしごととくらしを考える～
愛知県	特定非営利活動法人 ファミリーステーションRin	子育て支援者養成講座

助成先の研修会・講習会の様子



(社会福祉助成・アジア福祉助成)

都道府県	団体名	事業名
愛知県	特定非営利活動法人 安城まちな学校	発達障害児・発達障害者支援に関するセミナー
愛知県	愛知県重度障害者団体連絡協議会	東京オリパラから、2026アジア競技大会に向けて
三重県	特定非営利活動法人 さくらプラス	地域福祉セミナー 発達に気になる子の運動について考える会
滋賀県	社会福祉法人 びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	重症心身障害児者施設における口腔ケアチームの運用に係る『口腔ケアコンサルテーションプログラム』の活用
大阪府	社会福祉法人 ふらっぷ	あーすまつり ～UP SIDE DOWN (ひっくりかえせ)～
大阪府	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪	事故防止・リスクマネジメントに役立つ! ～「気づく力」を訓練する～
大阪府	特定非営利活動法人 ジェイズ・マス・クワイア	精神障害者の引きこもりからの解放と社会復帰を目指すコンサート
大阪府	特定非営利活動法人 南大阪サポートネット	ひきこもりの若者支援のための「実践スキルアップ講座」
兵庫県	一般社団法人 日本ファミリーホーム協議会	第17回ファミリーホーム全国研究大会in和歌山 DREAMS COME TRUE～ みんなで描こう未来予想図Ⅱ～
兵庫県	神戸市立科学技術高校	海外での車いす修理活動及び家庭訪問
奈良県	ギャンブル依存症家族の会 京都	ギャンブル依存症勉強会・当事者家族相談会
島根県	えくぼ	えくぼ ゆめ・子ども交流発表会2023
広島県	社会福祉法人 尾道さつき会	地域福祉研修会の開催(仮称)
香川県	社会福祉法人 洋々会	庵治町で楽しみや生きがいを持って生活を送れるように地域共生社会の実現を目指す事業
福岡県	一般社団法人 久留米健康くらぶ	オンライン子ども世代の介護者の集いの拡充と調査研究
福岡県	特定非営利活動法人 アコア	『DV被害者支援のためのスタッフ研修事業』
宮崎県	特定非営利活動法人 I'LLBE	発達障害を持った方への基礎的な支援 ～特性理解からコツコツと～

B. 研究事業 8団体 助成額: 364万円

都道府県	団体名	事業名
北海道	特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	ひきこもり8050問題対応型地域支援拠点設置事業
東京都	公益社団法人 東京都社会福祉士会	刑事司法ソーシャルワーカーの支援と効果
東京都	一般社団法人 日本車椅子シーティング協会	世界保健機関の車椅子・支援機器関係資料翻訳事業
神奈川県	社会福祉法人 かしの木会 ぐず葉学園	知的障害のある人の健康測定による未病改善に向けての取り組み
愛知県	特定非営利活動法人 こどもサポートネットあいち	東海3県の児童養護施設における食事状況調査
奈良県	社会福祉法人 わたぼうしの会	高齢化する障害のある人の暮らしとACPに関する調査研究
和歌山県	砂山地区社会福祉協議会	認知症予防早期対応研究及び地域支え合いシステム構築研究
沖縄県	特定非営利活動法人 かなめ	A型でもない、B型でもない、「スーパーB型」を目指す就労支援モデル開発の実践研究

2. アジア福祉助成事業 5団体 助成額: 150万円

国	所属	事業名
フィリピン	カンルンガン・サ・エルマ財団	路上教育プログラムおよびオープン・デイ・センター
タイ	ネオ・ヒューマニスト財団	ヘルシーで楽しいトンラック学校でのランチ
タイ	善き隣人財団	知的障害のある生徒および学校関係者のための障害者を包摂した災害リスク軽減のための研修
スリランカ	シッタータ児童発達財団	「スマイル～バック・トゥ～ライフ」学習障害に苦しむ子どもたちの識字技能の向上(第2段階)
インドネシア	さくらインドネシア財団	(ハリケーンと新型コロナ後における)能力開発および心理社会的支援プログラム

助成先の研修会・講習会の様子



社会福祉助成事業 実施要綱

申請期間:2023年11月1日~2023年12月15日

2024年度日社済「社会福祉助成事業」のご案内

公益財団法人日本社会福祉弘済会は、少子高齢化が進展し、多様化する福祉需要のなかで社会福祉の向上を目指した“研修事業”や“研究事業”に助成することにより、豊かな福祉社会の実現に寄与することを目的といたします。

2024年度も下記の通り、社会福祉関係者(社会福祉施設等社会福祉事業に従事する方々等)に係る研修・研究事業に対して、公募による助成事業の募集を行います。

1 助成対象事業と助成対象経費

【研修事業】

①対象事業

- 福祉施設職員の方などを対象としたケース

福祉施設職員等が幅広い視野と専門性を持って福祉サービスの支援業務向上に携わるために実習する研修事業

- 地域住民の方などを対象としたケース

福祉サービスのあり方や専門的知識・技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業(研修会、セミナー、講演会など)

②対象経費

- 講師謝金・交通費・宿泊費・会場費・報告書作成費

【研究事業】

①対象事業

- 福祉サービスの向上等を目的とした先駆性ある事業の実践を通して行われる研究事業

- 社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業

②対象経費

- 研究事業費・調査経費・謝金・原稿料・報告書作成費

2 事業実施期間と助成金額

①事業実施期間

2024年度(2024年4月から翌年3月末)中に実施される事業

②助成金額

1件(1団体)あたりの上限額50万円(総額2,000万円以内)

※助成対象経費合計の80%以内かつ50万円以内となります。



3 申請条件

- ①申請団体は社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体などとなります。(申請は1団体、1事業とします。)
- ②法人格のない任意団体、グループは申請書下段に市区町村社会福祉協議会の推薦を得て、申請書をご提出ください。
- ③反社会的勢力及び反社会的勢力と関係すると認められる法人、団体からの申請は受け付けいたしません。
- ④助成対象となった場合、団体名、代表者氏名、所在地、事業内容、助成金額等を公表いたします。また、実施事業に参加もしくは事後に訪問することがありますので、ご了承の上お申し込みください。

4 申請方法

- ①申請書 2023年9月中旬以降に、日本社会福祉弘済会のホームページ(<https://www.nisshasai.jp/>)をご覧ください。申請書用紙等はホームページからダウンロードの上、ご使用ください。
- ②申請期間 2023年11月1日～2023年12月15日
- ③提出先 下記アドレスに申請書を添付のうえ電子メールにて申請してください。

E-mail : jyosei@nisshasai.jp

※申請方法についてご不明な点があればご相談ください。 TEL:03-5858-8125

※申請書に記載されている個人情報は本事業の選考に関わる業務のみに使用し、それ以外には使用いたしません。



助成要綱のページ

5 添付資料

申請時に下記資料をご準備ください。必要に応じてご提出いただくことがあります。

- ①申請団体の定款(任意団体は規則、規定)
- ②申請団体紹介パンフレットや団体発行の機関誌など
- ③申請団体の直近の事業報告、決算書
- ④申請団体の役員(会員)名簿

6 審査と結果通知

- ①申請案件は予備審査後、選考委員会の選考を経て、理事会(3月開催予定)で決定します。
- ②選考結果は採否に関わらず決定後、各申請団体にご連絡いたします。(2024年3月下旬予定)
- ③申込み書類は返却いたしません。

7 事業完了報告書の提出

助成事業終了後1ヶ月以内に、事業完了報告書をご提出ください。

※事業完了報告書の作成要領は、助成決定時にご通知いたします。

●助成事業成果報告

あじの里異世代交流と介護予防事業

社会福祉法人 洋々会
代表 森野 幸子

1. 団体の紹介

社会福祉法人洋々会は老人福祉事業として特別養護老人ホームあじの里、あじの里ショートステイサービスセンター、あじの里デイサービスセンター、あじの里ホームヘルプサービスセンター、あじの里介護支援サービスセンターを開設しています。障害福祉事業としてあじの里地域生活支援センター、就労継続支援B型「きらり」、生活介護「きらり」、指定計画相談支援・指定障がい児相談支援、児童発達支援「げんきくん」、放課後等デイサービス「げんきくん」、短期入所「谷の家」、「谷の家2」を開設しています。また子育て支援事業として子育て広場おるごーる、小規模保育園おるごーるを運営しています。これらの社会福祉事業を地域に密着して行うことにより地域福祉の向上を目指して住み慣れた庵治町で楽しみや生きがいを持って生活を送れるように地域共生社会の実現を目指す事業を実施しています。

2. 助成事業概要

令和4年4月～令和5年3月まで、月1回特別養護老人ホームあじの里で、あじの里に併設している保育園児と就労支援の障害者、庵治町の高齢者、地域の人々等、全ての世代の人が交流を図る異世代交流会を実施します。午後2時～3時まで、講師を派遣して勉強会を行う。午後3時～カフェを行いケーキやお菓子を食べながら談笑する。保育園児の歌や季節の催しを行う。令和4年4月～令和5年3月まで、月1回ECCの講師を派遣して認知症カフェを実施して園児と障害者、高齢者が脳トレ、英会話を行う。令和4年4月～令和5年3月まで、月～金までリトミック、音楽療法、ECC英会話、健康体操の先生を派遣して園児、障害者、高齢者が交流を図る機会を作る。フィリピン留学生と家族、地域の人で介護講習を行い介護者のつどいを月2回行う。

3. 事業の成果

あじの里から高松市地域包括支援センターに12年間出向してアウトリーチの大切さと地域の人々と共生社会を目指していく事の大切さを学びました。令和4年4月～介護予防、認知症予防、自立支援を図れるように認知症カフェ、高齢者の勉強会を初めました。また地域に出向いて出前講座を開催して介護予防、認知症予防に努める事の大切さを学びました。住み慣れた庵治町で楽しみや生きがいを持って生活を送れるように地域共生社会の実現を目指す上で顔の見える関係作りを行い保育園児、障害者、高齢者、地域の人々等、全ての世代の人が異世代交流を図る機会を作る事により、介護予防、認知症予防、自立支援に繋げる事ができ相談支援にも繋がっていくと思います。令和4年4月～月1回あじの里に併設している保育園児と就労支援の障害者、庵治町の高齢者、地域の人々等、全ての世代の人が交流を図る異世代交流会を実施して、講師を派遣して勉強会を行い保育園児の歌や季節の催しを行い、共助の精神の基に皆さんで助け合っている家族のような絆が生まれて介護予防自立支援に繋がっていると思います。地域で孤立しないように顔の見える関係を作り、信頼関係を形成する事により早期予防、早期発見ができて地域共生社会の実現を目指せるような取り組みに繋がっているように思います。令和4年4月～月1回ECCの講師を派遣して認知症カフェを実施して園児





と障害者高齢者が脳トレ、英会話を行う事により認知症予防に繋がる取り組みができてきているように思います。英語や脳トレをする事により考える力が形成されて認知症予防に繋がり意欲の向上を図れていると思います。また様々な世代の方と交流を図る事により刺激を得られて意欲の向上や認知症予防に繋がっていると思います。令和4年4月から週5回（月曜日から金曜日）までリトミック、音楽療法、ECC英会話、健康体操の先生を派遣して高齢者、保育園児が介護予防に繋がる体操や脳トレができて他者との交流を図る機会を作り、楽しみや生きがいを持つ機会を作れていると思います。また定期的に顔を合やす事により、家族のような関係になり共助の精神の基にお互い励まし合い助け合えるような関係になり自立支援に繋がっていると思います。顔の見える関係を作る事により信頼関係を形成する事ができて、困った時には相談していただける関係を作れているように思うので早期予防、早期発見できて地域共生社会の実現を目指していけないのではないかと考えています。

4. 成果の広報・公表

下記①～⑤の多くの機会を通して、介護予防教室喫茶サロン、異世代交流会、認知症カフェ、あじの里お出かけ等、地域共生社会の実現を目指す事業について定期的に活動状況を報告しています。また、参加者から意見をいただいて事業に反映しています。

- ①社会福祉法人洋々会インスタグラム
- ②高松市庵治町で2か月に1回開催しているネットワーク会議
- ③高松市庵治町で年2回掲載している広報誌
- ④高松市で年2回開催している地域共生社会構築事業連絡会
- ⑤高松市で年1回開催している老人介護支援センター連絡協議会

5. 今後の展開

令和1年4月～介護予防、認知症予防、自立支援を図れるように認知証カフェ、介護予防教室、喫茶サロン、異世代交流会等を実施していますが、今年の4月で5年目を迎えて、今後庵治町内の全ての世代の方が介護予防教室喫茶サロンを行っている場に当面は週5日（月曜日から金曜日）で考えていますが将来的には土曜日日曜日も集える場所にして皆さんが気軽に集って共助の精神の基に家族のような関係を作れて助け合える絆を形成できる場を作れたらと考えています。庵治町内の全ての世代の方が当たり前のように集えてたわいのない話をして笑顔に包まれる場所にして、困った人がいればみんなで助け合える場にしていけたらと考えています。老人介護支援センター、主任介護支援専門員、社会福祉士としての専門性、相談援助技術を活かして相談に乗って支援していきたいと考えています。その取り組みの一環として認知証カフェ、異世代交流会、あじの里お出かけ、保育園児の英会話教室等を行い地域共生社会の実現に向けた取り組みを行っていきたくと考えています。



●助成事業成果報告

重症心身障害児者施設における口腔ケアチーム立ち上げに係る『口腔ケアコンサルテーションプログラム』の活用

びわこ学園医療福祉センター野洲
代表 高野 知行

1. 団体の紹介

当施設は、西日本で初めての重症心身障害児施設として、昭和38年に開設しました。開設当初より心身ともに重い障害をもつ方たちの、医療的ケアと日常生活全般での支援を行っています。開設から50年以上の時を経て、現在は滋賀県内で生活されている重症心身障害児者の方たちへ、外来や通所事業、訪問事業、グループホーム運営等ニーズに応じて事業を拡大しています。当施設では、医療や生活全般に多様な支援が必要な方たちに対し、より質の高い医療、看護、生活援助の提供を目指して事業を進めています。

2. 助成事業概要

重症心身障害児者は嚥下機能の低下により呼吸器感染を発症しやすく、状態が容易に悪化するといった特徴があります。誤嚥性肺炎の予防のためには口の中を清潔に保つことが重要とされていますが、重症心身障害児者は開口が困難であったり歯磨きの拒否など、さまざまな要因で口腔内の衛生状態が保ちにくい状況です。そのため、施設全体の口腔ケアの質を向上する目的で『口腔ケアチーム』を立ち上げました。そして、『口腔ケアチーム』としての活動を効率的に進めていくために、すでに高齢者施設での口腔ケアチームの立ち上げ支援の実績がある慢性看護専門看護師の『口腔ケアコンサルテーション』プログラムを活用したいと考えました。『口腔ケアコンサルテーション』は1回2時間で6ヶ月のプログラムで構成されています。今年度はコロナの感染対策のために、外部者を施設内へ招くことができない期間があったため、連続した6ヶ月として訪問してもらうことができませんでしたが、6月～3月までの間に計6回の訪問がかない、口腔ケアチームメンバーを対象にコンサルテーションプログラムを受けることができました。

3. 事業の成果

『口腔ケアコンサルテーション』プログラムは6月から受けることにしましたが、5月に講師が導入としてZoomによるオリエンテーションの時間を1時間作ってくれたので、初回から戸惑いなくスムーズな運びとなりました。

昨年の計画段階では5名の職員で6回のコンサルテーションプログラムを受ける予定にしておりましたが、一度に全員が参加することができなかったので、一部の職員は隔月での参加としたので述べ18名の参加になりました。直接プログラムに参加できなかった職員に対しては、内容の伝達をすることで習得レベルの統一に努めました。



『口腔ケアコンサルテーション』プログラムでは毎回講師に当施設を訪問してもらい、直接指導を受けることができました。1回2時間のコンサルテーションの内容は、「前回の振り返り（口腔ケア実施者を中心に取り組みの報告）」「口腔ケアに関する学習会（約20分）」「利用者の口腔ケアの実施（各1名）」「口腔ケア実施後の振り返りと、日常の口腔ケアに活用する方法の検討」という流れで実施しました。講師を招いての口腔ケアの実施指導では、誤嚥性肺炎のハイリスク者や口腔ケアの困難者を選定し、集中的かつ細かな声かけまで丁寧になりやすい指導が受けられました。そんななか、指導内容を日常的なケアにどう活用していくか、ということが課題となりました。今後は利用者の口腔ケアで現場が困っていることを抽出して、問題に対して口腔ケアチーム会で対

応を検討して現場に返していく流れを作っていけたらと考えています。

重症心身障害児者にとっての口腔ケアは、歯磨きにより口腔内の清潔を保つだけでなく、誤嚥性肺炎の予防も視野にいた生命予後やQOLに直結する重要なケアだと言えます。『口腔ケアコンサルテーション』プログラムを受けたものの、取り組みを進めていくための知識や技術、発信力など力不足から不安を拭うことはできませんが、「まだ始めたばかり!!」今後も口腔ケアの向上にむけて研鑽を積みたいと考えています。



4. 成果の広報・公表

12月に開催した法人主催の実践研究発表会で活動報告の機会があり、重症心身障害認定看護師の活動報告の一つとして、口腔ケアチーム立ち上げの経緯から『口腔ケアコンサルテーション』プログラムの活用や活動内容を報告しました。実践研究報告会はコロナ禍ということもありオンラインでの開催となりましたが、243名の参加があり、施設内外の方に広く活動内容をお伝えすることができました。

また、3月の当施設内での実践報告会でも12月同様、重症心身障害認定看護師の活動報告の中で、自施設の職員44名を対象に簡単ではありますが口腔ケアチーム会の取り組みを報告することができました。

5. 今後の展開

1回2時間6ヶ月の『口腔ケアコンサルテーション』を受けて、口腔ケアに関する知識や技術の習得に努めてまいりましたが、やはりそれだけでは不十分だというのが実感です。利用者の口腔ケアに関する問題提起と解決策を提案するためには、さらなる研鑽の必要性を実感しています。そのため、『口腔ケアコンサルテーション』プログラムの終了後も、慢性看護専門看護師のフォローを受けながらチーム活動を進めていきたいと考えています。また、幸い法人内の他施設に歯科がありますので、歯科医師や歯科衛生士との連携も視野に入れていきます。

今年度の取り組みとして示せる大きな成果はありませんが、まずは継続することで小さな成果を積み上げていければと考えています。

●助成事業成果報告

真のごちゃまぜプロジェクト 知ることからはじめよう

認定 NPO 法人アークシップ
代表 長谷川 篤司

1. 団体の紹介

2002年に法人設立。2018年に認定NPO法人を取得。「音楽でたくさんのハッピーを創りたい」をミッションに掲げ、音楽の力で交流の場を創出し、文化芸術事業によって街づくりに貢献している。2009年より横浜市文化観光局との共催で音楽祭「ホッチポッチミュージックフェスティバル」を開催。出演者のジャンル、来場者の世代・国籍・障がいのバリアを超えた多様で寛容な空間を具現化し、文化芸術分野と福祉分野の有機的なつながりを創造している。

2. 助成事業概要

【目的】体験と学習から知識を体得しユニバーサルなイベントを具現化する。

【区分A】研修会（体験会）の開催

1. 研修会1回目：VR（バーチャルリアリティ）体験会
6月18日(土)会場：波止場会館5階ホール VRを用いて障がい当事者の立場を体感。講師：黒田麻由子氏（株式会社シルバーウッド）

2. 研修会2回目：ユニバーサルガイドボランティア研修会

8月20日(土)会場：波止場会館5階ホール イベント会場で障がいがある方を介助する具体的な対処方法を体験学習。講師：NPO法人移動サービス、中消防署、くどおかステーション

3. 研修会3回目：ユニバーサルデザインの基礎～色と形そして文字～【オンライン講座】

9月14日(木)多様な見え方があることを知り、情報伝達に活かす方法を学習した。講師：間嶋沙知氏（デザイナー、高知県在住）

【区分B】上記の活動で得た知見をイベント運営に活用・共有ならびに情報の発信

1. 「ユニバーサルイベントの手引き書」の作成とイベン

ト運営での活用

2. 参加者募集やレポート発表に用いるプロジェクト専用のホームページ構築

3. 事業の成果

1. VR（バーチャルリアリティ）体験：有料参加者20名（配信受講含む、ゴーグル型VRのため配信参加者は見学のみ）

体験後のアンケートで約70%の参加者が体験内容に「大変満足」であり当事者への理解を「感じた」との感想を得ることが出来た。健常者と障がいの境目は無く濃淡（グラデーション）があるとの講師の解説に共感していた。また個々のVR体験から私たちがイベントの運営をする上で何が出来るかを協議し音楽祭会場にて実践した。

1) 聴覚感覚過敏（周りの音を聞こえすぎてしまう）

サイレントルーム（休憩室）の設置。イヤーマフ（遮音器具）の貸出。意識的なゆっくり会話。

2) 不注意優勢型のADHD（優先順位をつけられず混乱する）

仲間同士、スタッフ間における配慮。一度に複数の業務指示は極力避ける。

3) 視野障害（視界狭小と中央が見えない症状）

口頭での案内内容の配慮。「こっち」「あっち」などの「こ・そ・あ・ど」言葉を使わない。



2. ガイドボランティア研修会：有料参加者25名

ホール内に障害物を設置しての車イスの介助の体験研修は、障がい当事者の参加もあり、生の声を得てマニュアル化に役立った。例えば介助する時の声のかけ方の台詞化。また段差や坂道を上がる時と降りる時の補助操作の違いを体得出来た。同時に実施したAED講習では、参加者全員が専門の消防職員と消防団員から丁寧な指導を受け器具操作を体得することが出来た。



3. ユニバーサルデザインの基礎【オンライン講座】：有料参加者79名

VR体験会で得た知見を補完する視覚的なユニバーサルデザインの理論と実践を学んだ。

たとえばカラーユニバーサルデザインの分野では、目の仕組みからはじまり、高齢者や障がい者を含めた色覚多様性を知り、良い色合いとは伝わる目的が達成できる配色であり、色味をずらす、コントラストを強める、色以外の情報（形やサイズ）を加える手法があることを学習出来た。

具体的な成果はイベント会場の掲示物を例に、コントラストの付け方、文字の視覚的明瞭化やレイアウトの規則性をマニュアル化した手引書を作成した。

ARCSHIP

パッと見て パッと見て
パッと見て パッと見て

ユニバーサルデザインの基礎
【色と形そして文字】

真のごちゃまぜプロジェクト第3回研修会《配信講座》
講師：間嶋 沙知 氏（デザイナー／高知県在住）
聞き手：長谷川篤司（認定NPO法人アークシップ代表、FMヨコハマDJ）
配信日時：9月14日（水） 20:00～21:40

主催：認定NPO法人アークシップ《日社済社会福祉助成事業》

4. 成果の広報・公表

6月18日実施「～VR体験会～」と8/20実施「ガイ

ドボランティア研修会」は本助成金で構築した専用ホームページで以下のスケジュールで公表した。

9月14日実施のユニバーサルデザインの基礎【オンライン講座】は開催同日にホームページからリンクする方法でYouTubeにて講座全編の動画を公表し400以上の観覧者からチャンネル登録をいただいた。<https://www.youtube.com/watch?v=BieEcOYzoyU>

「かっこいい大人への道～手引書～」と改題した「ユニバーサルイベント手引書」は同じく専用ホームページにて公表した。また「かっこいい大人への道～手引書～」はユニバーサルなイベントを初体験するスタッフでも分かりやすくするために、文字数を少なくしイラストも多用し、知恵を絞った成果物であり、昨年横浜で開催された音楽イベントに従事した日本財団ボランティアのべ80名に配布して活用していただいた。さらに今年3月19日に横浜市内で開催されたパラスポーツイベント「ちょうどいい運動会（FMヨコハマ主催）」においても従事するスタッフ約50名全員に配布した。

5. 今後の展開

私たちは福祉の専門家ではないが、心身に障がいがあっても「行ける」音楽祭を目指し、一步一步努力と実行を積み重ねてきた。その過程で感じることは知ることの大切さである。「知る」とは専門家が持つ知恵や技術に加え、障がい当事者と直に接し相手の立場を知ることでもある。今回の助成事業を通じて多くの事を知り、どのように音楽祭の運営に役立つかを協議し「手引書」として体系化する事が出来た。

私たちアークシップには、視覚障がい者2名、構音障がい・歩行障がい者2名の仲間達、そして出演者の中にも多くの障がい者がいる。今後の展開で特に注力したい点は、この活動を多くの障がい当事者に伝え、多様な仲間を増やしたいと考える。多様な仲間達とともに「障害者向けの音楽祭」ではなく、「一緒に楽しむ音楽祭」を創りたい。配慮は必要だが過度に構えることなく、ともにひとつの夢へと歩みたい。なぜならその夢への過程が相互理解と社会を変えるきっかけになると考えるからだ。

●助成事業成果報告

妊娠・出産・子育ての無料LINE相談窓口 「コアLINE」の相談員研修事業

特定非営利活動法人 そらいろコアラ
代表 鳥飼 蓬子

1. 団体の紹介

子どもと親、妊産婦への包括的・長期的支援によって、虐待や不適切な養育とその連鎖から子どもたちを守り、誰もが健康で、安全に、安心して生活できる地域づくりに寄与することを目的に、妊娠・出産・子育てにまつわる相談をLINEで受けとめる相談窓口「コアLINE」や、予期せぬ妊娠を予防する性教育・SNS発信、自治体や医療現場と連携した子どもと妊産婦の居場所支援や子ども食堂の運営等を行う。

2. 助成事業概要

当団体の運営する妊娠・出産・子育ての無料LINE相談窓口「コアLINE」では、「生理が来ない」といった妊娠不安・葛藤や、「子どもをかわいと思う自信がない」「育児が辛い」「兄の様子がおかしい」といった育児期の相談に寄り添い、若年妊婦や特定妊婦の妊娠期・育児期の孤立を防ぎ、予期しない妊娠を含むSOSの早期把握と支援・介入に繋がっている。相談窓口は、毎日2名の相談員が交代制で対応し、メッセージのやりとりや通話によって、相談者の状況の聞き取りや情報提供、外部支援機関との連携を行っている。寄せられる相談には、「(育児が辛く)死にたい」「子どもを叩いてしまう」というような、緊急度の高い対応が求められるケースや、産後うつをはじめ精神疾患の既往のある方からの相談も多い。専門的知識を要する相談も多いため、本研修事業によって、継続的に内部研修を実施し、相談員同士の議論の機会を確保することで、相談員の知識や相談対応能力の向上を図る。

3. 事業の成果

■「コアLINE」相談事業成果（2022年度）

窓口開所365日、延べ登録者数967件、新規相談件数

364件

■研修事業成果

回数:計6回の研修を実施(2022年10月～2023年3月)

対象:相談員および一般参加者

内容:相談員へのニーズ聴取に基づく研修計画にもとづき設定(NPO法人サロンみんなの保健室様、NPO法人ピッコラレー様、NPO法人キミノトナリ様、遠見才希子様、和田浩様、小山市子育て家庭支援課・健康増進課様)

妊娠葛藤相談支援についての研修では、相談員が相談者に必要な支援に繋がるためのハブの役割を担うことや、複数の相談員の意見交換をしながら相談者の理解を深めることの重要性について学んだ。コアLINEに寄せられる相談内容は多岐にわたり、単なる妊娠相談のみで解決しないものも多々あった。その場合、助産師の知識や経験だけでなく、保健師、看護師、社会福祉士やケースワーカー等の各分野の専門家の協力が必要になる。相談員は窓口としてのコアLINEだけで解決するのではなく、相談を受けてどの専門家へ繋ぐことができるかを考える、という必要性を学ぶことができた。また、複数の相談員の意見交換を行うことで、それぞれの専門知識を聞く機会になるだけでなく、個人では思い至らなかった「相談への向き合い方」や、相談者の伝えなかったことの捉え方に気づききっかけとなった。

また、妊娠SOSの事例を用いた研修では、相談者を行政に繋ぐ過程や、生活保護を受給する際の手順など、行政と協力して支援にあたるための知識を得た。その甲斐あって、研修後、複数の相談事例で自治体との連携に成功し、相談者へ必要な支援を届けることができた。(例:発達障がいの可能性のある相談者から妊娠相談を受けた際、相談者の問題背景として、生活環境を改善させる必要があると分かった事例。自治体の福祉部署へ事前に相談者の事情を説明することにより、相談者が生活に必要な行政支援を受けることができ、生

活環境が改善に向かうこととなった。)



4. 成果の広報・公表

■「コアLINE」相談事業

相談件数や相談内容の傾向や対応方針、相談事例について、個人を特定できないよう加工した上で、外部へ公表している。方法としては、当団体ホームページでの公表や、当団体が毎月発行する活動報告レポートでの継続的な報告を行っているほか、会報や外部講演・取材の機会を利用した公表・提言を行っている。また、2023年2月に行ったオンライン活動報告会の際でも、事業の活動内容と成果を紹介した。

今後は、上記の継続のほか、支援連携が期待される自治体等の外部機関の担当部署を訪問し、関連する相談対応状況を共有しながら、窓口の活用や今後の連携方法について意見交換を行うことで、今以上の連携体制の構築を目指す。また、より広い対象者・関心者へ向けた成果報告や支援提言を行っていく。

■研修事業

研修事業報告レポートを作成して、支援連携機関や団体支援者、今後連携を図りたい機関等へ配布したほか、上述の毎月発行の活動報告や団体ホームページ上に事業成果や助成の旨を掲載した。2023年2月に行ったオンライン活動報告会においても本研修事業に触れ、事業の活動内容および成果を報告した。

5. 今後の展開

■「コアLINE」相談事業

相談員の拡充を図り、受け入れられる相談件数を増やしていく。また、相談員が長く事業に関われるよう、

有給での雇用を増やす。

行政との連携において、栃木県内の役所との連絡相談はスムーズに行えるが、相談者が県外に在住の方の場合、相談者の籍がある自治体と調整を図るため、すぐに受け入れてもらえない可能性もある。県外の自治体と連携をとるケースも増えてくると予想されるため、相談者をスムーズに行政支援に繋げるためのマニュアル作りの作成を行う。

相談件数や相談内容の傾向、支援提言まとめ、より積極的な公表を行い、環境整備に努める。

■研修事業

研修を通して得られた知識や相談員内の学びを言語化し、今後加入する相談員も含め来年度以降も学びを共有できる体制を整える。今回の外部講師を招へいする形式の研修は予算の都合上課題もあるが、団体内の具体的な事例をもとに、相談員内で対応を検討したり、今後のための支援シミュレーションと意見交換を行うような研修を継続する。



いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できる ボランティア活動。

—「書き損じはがき」の収集にご協力をお願いします—
「空飛ぶ車いす」は、日本で使われなくなった車いすを
日本の工業高校生が修理・再生して
アジアに贈るボランティア活動です。



「空飛ぶ車いす」は、
多くのボランティアに支えられています。

はがき収集 ボランティア

全国の「はがき収集ボランティア」から
届けられた「書き損じはがき」を切手
に交換し、さらに企業等の協力により
切手を現金化して“パンクしないタイ
ヤの購入費用”や“工業高校から
国際空港までの車いす輸送費用”に
充てています。

修理 ボランティア

工業高校のクラブ活動や有志、
生徒会などで車いすの
修理を行います。

輸送 ボランティア

ビジネスや観光などで
アジア各国を訪問する際に、
搭乗機手荷物として
運びます。

ご寄付をいただいた皆さま

(2022年1月～2022年12月)

数ある団体の中から当会の趣旨に賛同いただきご寄付を賜りました皆さまに
感謝申し上げます。温かいご支援ありがとうございました。
(敬称略・順不同)

佐藤 卓美
ジブラルタ生命保険株式会社
神栖市社会福祉協議会 波崎支所
兵庫県立相生産業高等学校
兵庫県立東播工業高等学校
星 明子
三菱総研DCS株式会社

栃木県立栃木工業高等学校
福田 綾子
神栖市社会福祉協議会
岩手県社会福祉協議会
木村 芳枝
竹谷 尚人
宗像 加代

※匿名希望の方からもいただいております

お問い合わせ
はがき送付先

公益財団法人
日本社会福祉弘済会

〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-32-8
URL ▶ <https://www.nisshasai.jp/>
TEL. 03-5858-8125 FAX. 03-5858-8126



ジブラルタ生命は未来を担う子どもたちを応援しています。

へき地・複式・小規模校で展開する取り組み

へき地校へのリユースノートPC寄贈 (2015年10月から実施)

～累計で1,861校に2,127台を寄贈～

ジブラルタ生命では、全国へき地教育研究連盟を通じて、連盟に加盟する全国のへき地・複式・小規模校から希望を募り、応募のあった学校にリユース処理したノートパソコンを寄贈しています。この取り組みは、当社の社会貢献活動のテーマである「未来を担う子どもたちを応援する」ために実施するもので、2015年からスタートし、累計寄贈数は1,861校に2,127台となります。当社はこれからも様々な社会貢献活動に取り組んでまいります。



＼お届けした校長先生からのコメント／

「学校内で自由に使えるPCが出来ると本当に助かります。ありがとうございます」

へき地校での一輪車講習会開催を応援 (2016年から65校で開催)

ジブラルタ生命と70年以上にわたる提携関係にある公益財団法人日本教育公務員弘済会は、2016年より新たにへき地学校教育推進事業を始めました。その一環として実施している一輪車講習会は、公益財団法人ベルマーク教育助成財団、公益社団法人日本一輪車協会、全国へき地教育研究連盟、ジブラルタ生命との協力により、7年間累計で65校において開催されました。2023年以降も引き続き5者の協力のもと、へき地校の子どもたちと先生方に感動を届けられるように、「一輪車講習会」を開催してまいります。



一輪車の国際大会で優勝経験のある講師の指導のもと、子どもたちは一輪車と悪戦苦闘しながらも最高の笑顔を見せてくれました。

＼参加した子どもたちからのコメント／

「できないと思っていた技ができるようになって、自信ができました」
「みんなで力を合わせて技を練習した分、達成感がすごかったです」
「講師の先生みたいにカッコいい技をいっばいできるようになりたいです」
「一輪車講習会で一輪車がもっと好きになりました」



＼校長先生のコメント／

「子どもたちも教職員も感動した素晴らしい講習会となりました。支えていただいた方々に感謝を申し上げます」
「講師の方々が笑顔で一生涯懸命に指導やお話をしていただき、子どもたちも有意義な時間を過ごすことができました」
「講師の方々の模範演技を見ることができて、子どもたちの一輪車に対するモチベーションがさらに向上しました」
「目標を達成する喜びを感じた子どもたちが多く見受けられました」



Magic of the Dream

子どもたちの「夢をかなえる力」を育む「感動」や「驚き」を得られる体験をプレゼントし、「希望にあふれる未来」へとつなぐ「架け橋」となるプログラムを全国各地で実施します。各活動には、ジブラルタ生命の社員がボランティアスタッフとして積極的にに関わり、子どもたちにエールをおくります。



ドリーム・スクール・キャラバン

プロからの直接指導に「ドキドキ」「ワクワク」全国の小学生を対象に、47都道府県をキャラバンしていく本プログラムでは、スポーツや文化活動などさまざまな教室を実施し、たくさんの子どもの心に夢のような感動をプレゼントしていきます。



ドリームナイト・アット・ザ・ズー

来園者をおもてなし！障がいのある子どもたちとご家族を動物園や水族館に招待し、気兼ねなく楽しいひとときを過ごしてもらう国際的なイベント、ドリームナイト・アット・ザ・ズー。当社は2012年からこのイベントを実施している動物園・水族館をサポートしています。



PRUDENTIAL EMERGING VISIONARIES ボランティア・スピリット・アワード

～未来を描くチカラ～ ボランティアに取り組む中学生・高校生を応援！ ボランティア・スピリット・アワードは、ボランティアに取り組む中学生・高校生を応援するプログラムで、1995年にアメリカでスタートしました。日本では1997年から開催され、今では世界各国で行われる国際的なプログラムとなっています。



ベルマーク運動

(公財)ベルマーク教育助成財団のベルマーク運動に協賛企業として参画し、個人のお客さま向け生命保険全商品の新規ご加入1契約について、一律100点のベルマークポイントを付加しています。



保険に愛という本質を。

「公益財団法人 日本社会福祉弘済会」はジブラルタ生命と提携し「福祉の共済」を推進しています。



くっきり! 福祉の未来形

ニッ シャ サイ 日社済の 主な事業



社会福祉助成事業

公募による社会福祉関係者の研修・研究事業等への助成を行っています。



アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会と連携した福祉の国際協力パートナーの養成と、その活動の支援・助成を行っています。



空飛ぶ車いす支援事業

アジア等の障害をもつ方々への車いす修繕・寄贈を支援しています。



社会福祉関係者の共済に関わる事業

福祉関係者の福利向上のために提携会社を通じて団体扱生命保険を提供しています。

